

共同助成(熊本県遊技業協同組合)

「熊本城復興かるた作成」事業

地震で被災した熊本城の復旧を応援する気持ちを育み、子どもたちの心の健康を取り戻すことを目指すかるた

九州地方に甚大な被害をもたらした大地震から3年。熊本城の大天守は2019年10月に外観復旧を果たし、熊本県民に大きな勇気を与えてくれた。若い世代にその価値と魅力を伝え続けていくことが課題とされるが、子どもたちが熊本城に親しむ機会をつくるため、官民から構成された地元組織が熊本城かるたの制作に取り組んだ。



熊本日日新聞に掲載されたコンテストの応募社会



小・中学生のべ961人の作品から選ばれたかるた

被災した熊本城大天守の外観復旧に合わせて子どもたちが熊本城に親しむ機会をつくる

1607(慶長12)年、加藤清正公によって築城された熊本城は、長く市民から愛されるとともに、県内外から多くの観光客が訪れる熊本のシンボルだった。しかし、2016年4月に発生した熊本地震により大きな被害を受けた。現在、修復が進められているが、往時の姿を取り戻すには20年を超える年月がかかることとされている。

その復興を支援するとともに、地震による被害や修復の過程などを県民に伝え、熊本城復興の機運を高めるための情報発信を行うことを目的に、熊本市、熊本日日新聞社、及び同社が展開する「熊本城復興支援キャンペーン2019」に協賛する各社によって発足したのが、「熊本城大天守復旧支援プロジェクト2019実行委員会」である。

熊本城は2019年10月に外観復旧を果たし、特別公開

によってその雄姿を間近に見ることができるようになったが、地元の子どもの中には地震から3年がたっても身近だった熊本城に近づくことができず、寂しい思いを抱えている子どもや、地震に対する恐怖心やトラウマを完全にぬぐい切れていない子どももいたという。

同委員会ではその特別公開に合わせて、そうした子どもたちが熊本城に親しむことができる機会をつくり、その魅力を感じることで熊本城復興を応援する気持ちを育み、心の健康を取り戻してもらおうという趣旨のもと、AJOSCと熊本県遊技業協同組合の共同助成を受け、「熊本城復興かるた作成」事業に取り組んだ。助成によって新聞広告を複数回にわたって掲載したことで、のべ961人の小・中学生から作品が寄せられた。また、完成したかるたは県内すべての小・中学校や特別支援学校など約540校に寄贈された。

県民に深く溶け込んだかるた文化を背景に熊本城や熊本の魅力を伝えるかるたを作成

もともと熊本県では、県南の人吉市で室町時代にポルトガルの船員たちから伝わったトランプを日本で作り変えたと言われる「うんすんカルタ」が伝統的な遊戯として今も楽しまれているほか、熊本市中心部では学校区ごとに地元の景観や文化を詠んだ「校区カルタ」というものがあり、かるた文化が県民に深く溶け込んでいる。

同委員会では、多くの子どもたちに参加してもらおうと、熊本市教育委員会、熊本県教育委員会をはじめ県内郡市町村の教育委員会や熊本県美術教育研究会を通じて参加を呼びかけるとともに、熊本城にまつわる正しい知識を楽しみながら覚えてもらえるよう、熊本市監修のもと、歴史・人物・観光・イベント・特産品などの様々な角度から魅力を伝えることができる読み句をあらかじめ制作し、それ

に合ったかるた絵をコンテストという形で募集した。

同委員会では、「応募作品から子どもたちの熊本城に対する気持ちを感じられたこと、また完成したかるたの販売を望む声をいただいたことを喜ばしく感じるとともに、本事業が一定の役割を果たせたのではないかと感慨深いものがある」と振り返る。また同委員会では、制作したかるたが学習の場やイベントなどで有意義に活用されるよう、今後も利用を促していくという。

熊本県遊技業協同組合より

復興のシンボル熊本城をテーマにした子どもたちの作品はどれも素晴らしかったです。これからも熊本の復興を支援していきたいと思えます。



入賞した44人には表彰状と完成したかるたを贈呈



コンテストで入賞した児童や生徒

助成団体:熊本城大天守復旧支援プロジェクト2019実行委員会



熊本城や熊本の魅力が詰まったかるたを制作できました

この度、AJOSCと熊本県遊技業協同組合様に共同助成いただいたことにより、多くの子どもたちがこのコンテストに参加してくれ、素晴らしいかるたを制作することができました。また、紙面やHPを通じて、この取り組みを広く県民に伝えることができ、心より感謝申し上げます。当実行委員会は今後も熊本城復興の支援、熊本城かるたの利活用に関係団体とともに推進してまいります。

熊本城大天守復旧支援プロジェクト2019実行委員会
熊本日日新聞社 荒竹 貴之さん